

平成 29 年度事業計画

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日)

社会福祉法人 兵庫盲導犬協会

事業部門

I 盲導犬貸与事業

視覚障がい者の安全で自由な歩行を図り、盲導犬を貸与するため次の事業を行い、盲導犬を希望する視覚障がい者とのコミュニケーションを深め、質の高い候補犬の確保と相まって、貸与を推進する。

- ① 年間 5 頭の盲導犬を育成・訓練して、共同訓練(盲導犬候補犬による歩行指導及び犬との生活訓練)を実施したうえで、視覚障がい者に貸与する。
- ② 新規希望者に対して体験歩行等を行い、盲導犬貸与委員会で規程に基づく公正な判断の下で盲導犬貸与を実施する。又、申込済みの盲導犬貸与希望者と定期的にコンタクトを取り、現状把握及び情報提供をする。
- ③ IGDF(国際盲導犬連盟)査察
IGDF に加盟して 5 年目を迎えるにあたって、オーストラリア クイーンズランド盲導犬協会のダン・イングリッシュ氏とパトリック・グレン氏が来日し、当協会の査察をされる。

II 社会参加訓練事業

盲導犬使用者及び使用予定者に対する歩行、及び視覚障がい者が社会に参加するため、迅速な対応を心がけ、又、使用者それぞれの状況に応じたフォローアップサービスを行う。

- ① 盲導犬使用者に対する相談・助言及びフォローアップを実施する。
- ② 盲導犬使用者及び盲導犬希望者の研修会「第 12 回ワンダフル会」の開催と、意見交換会を行う。

III 盲導犬育成事業

盲導犬を育成するために、次の事業を行う。

- ① 繁殖
 - ・盲導犬候補犬及び繁殖犬確保の為、繁殖事業において協力関係の AGBN(ASIA GUIDE DOGS BREEDING NETWORK)実務者会議に参加するとともに、国内外の盲導犬育成施設及び優良な犬を保有するブリーダーとの交流を行い繁殖犬・候補犬の導入を行う。
 - ・カナダの盲導犬協会(British Columbia Guidedog Association)のビル・ソートン氏より 2 頭の繁殖犬メスを用意して下さっているので、持ち込み腹での輸入、手荷物で連れて帰る方法をと、現地の視察と交流を兼ねて訪問する。
 - ・年間出産 2~3 回行い、仔犬 25 頭を確保する。候補犬(2019 年盲導犬候補犬)の準備をする。又、繁殖犬飼育ボランティアの確保と指導に努める。

② パピーの育成

・仔犬の育成体制の強化を目指し、出産直後の仔犬の世話をするベビーシッターボランティアや、パピーウォーカーの希望者を継続的に募集するとともに、訪問指導や電話での指導を行う。又、定期的にパピーウォーカーの研修会を実施する。

③ 盲導犬候補犬の訓練

・稟性・健康評価ならびに定期的な訓練評価を実施し、適性のある犬に対し候補犬の訓練を行うとともに、適性のない犬に対しても、キャリアチェンジ犬とするか PR 犬とするかの評価を行い、PR 犬としての適性がある犬に対して啓発活動で使用できるよう訓練を行う。又、麻薬犬として活用できる場合は税関に譲渡する。

④ キャリアチェンジ犬

・盲導犬候補犬として適性のない犬に対しては、キャリアチェンジ犬ボランティア希望者を継続的に募集し、犬が快適に過ごせる体制を整える。又、キャリアチェンジ先に対して情報の収集と提供を行う。

⑤ リタイア犬

・リタイア犬ボランティア希望者を継続的に募集し、盲導犬が快適に余生を過ごせるよう体制を整える。又、リタイア犬に対して情報の収集と提供を行う。

⑥ ボランティアの養成

・盲導犬育成事業への支援ボランティアの確保と人材育成及び指導に努める。

IV 盲導犬歩行指導員、盲導犬訓練士および職員の研修

① 認定NPO法人全国盲導犬施設連合会の訓練士資格認定試験・歩行指導員資格認定にむけて職員養成の研修を行う。また、それに該当する職員は資格認定試験(実技及び学科)を受験する。

② 職員を、国立障害者リハビリテーションセンターや社会福祉法人日本ライトハウス及び認定NPO法人全国盲導犬施設連合会が主催する研修会に派遣し技術の向上を行う。

③ 職員及び盲導犬使用者に対して、啓発活動の為の研修を行う。

④ 職員に対して、視覚障がい者の歩行をサポートする実地講習を、施設内や路上・交通機関を利用して行う。

⑤ 全国盲導犬施設連合会のジャパンセミナーに職員を派遣して、研究発表を行う。

V 盲導犬啓発普及事業

盲導犬の必要性について社会全般への啓発を図り、盲導犬育成を推進するため、次の事業を行う。

① 盲導犬の必要性について、視覚障がい者個人及び団体に対して、盲導犬の体験歩行を施し、盲導犬貸与希望者を募るとともに広報誌「ワンダフル通信」のテープ・CD版の継続発行を通して、盲導犬に関する情報提供を行う。

② 各種団体・一般市民の要請に応じて、施設見学会や講演やデモンストレーション、資料の貸出しを実施し、積極的に啓発活動を行う。

- ③ 個人商店・民間企業・各種団体・学校等に協会支援自動販売機の設置及び募金箱の設置協力を働きかけるとともに、社員研修・企業の社会貢献等に関する企画を提案し、正しい理解の啓発とともに支援の獲得に努める。
- ④ 街頭募金において盲導犬啓発を行い、又、募金を募る。
- ⑤ 広報誌「ワンダフル通信」の発行及び視覚障がい者、施設向けテープ版「ワンダフル通信」の発行と刷新されたホームページを活用し、協会の情報を定期的に発信する。
- ⑥ 啓発用資料等の充実を図り、職員全員が啓発活動ができる状態にする。
- ⑦ 盲導犬チャリティーグッズの新商品開発を行い、グッズを通して啓発を進め、寄付を募る。
- ⑧ 新聞・ラジオ・テレビ・フリーペーパー等の取材に対して積極的に応じ、企画・アイデアを提案する。
- ⑨ 4月29日(祝)に当協会施設を開放し、一般市民にむけて盲導犬の正しい理解と慰霊祭「第17回国際盲導犬デーin神戸」を開催する。盲導犬使用者、ボランティア、協力者が参加して、相互理解と交流を深める。
- ⑩ ボランティアの意義を認知し、さらに推進する事を目的としたボランティア研修・交流会を計画し、実施する。
- ⑪ 2017年10月開設予定の神戸アイセンターと協力体制を取り、視覚障害リハビリテーションにおける盲導犬啓発普及を行う。

VI 関係団体協力事業

- ① 兵庫県内の中学校の生徒や専門学校の生徒に対してトライやる・ウィークを受け入れ、盲導犬育成事業の体験事業を行う。
- ② 神戸市シルバーカレッジに、盲導犬育成・訓練事業への啓発を行い、ボランティアの確保に努める。
- ③ 国際盲導犬連盟とのパートナーシップを深め、盲導犬育成の現場に活かすと同時に施設環境を常に国際レベルの基準に保つようにする。
- ④ 盲導犬・訓練犬に対する医療について、企業及び獣医師会、動物病院に継続しての支援と協力をお願いする。

VII 相談事業

- ① 盲導犬ユーザーからの相談や苦情、一般市民からの盲導犬に関する相談や苦情に対して、迅速に対応する。
- ② 盲導犬ユーザー及び盲導犬の社会受容の推進のため、行政や関連団体と連携しながら調査及び研究を実施する。

管理部門

(1) 個人会員・団体会員の増強

安定的な事業運営の為新規会員入会の働きかけを行い、年4回広報誌「ワンダフル通信」を通じて情報発信を行い、盲導犬育成事業への継続的な支援をお願いする。

(2) 募金箱設置店の開拓

安定的な事業運営の為、新規設置店の開拓につとめるとともに、既設店への募金箱回収交換作業を行い、年4回広報誌「ワンダフル通信」を通して情報発信を行い、盲導犬育成事業への継続的な支援をお願いする。

(3) 街頭募金の定期的実施

安定的な事業運営の為、協会募金活動ボランティア、中学校・高等学校やライオンズクラブ、企業等と協力して募金活動を行う。

(4) 自動販売機設置の拡大

安定的な事業運営の為、自動販売機の設置の協力者の開拓につとめる。

(5) ボランティアの養成

盲導犬育成事業への支援ボランティア(事務及びイベント関係)の確保と人材育成及び指導に努める。

(6) その他、目的を達成するために会議を行う

毎月第1火曜日に戦略会議及び全体会議、第3火曜日に犬舎会議、月1回訓練部会議を開催する。又、月1回事務局連絡会を開催し、効率的な組織運営や資金獲得に向けて職員の相互理解、意識を高めて目的に向けて活動するよう働きかける。

施設整備計画

- (1) 防災の自主点検・委託業者による点検を行う。又、共同訓練に訓練生と職員が協力して消防訓練を年1回、災害訓練(水災・土砂くずれ・地震など)を年2回、計3回実施する。
- (2) 設備の点検を定期的に行い、施設管理に努め、助成金を申請して適宜補修を行う。